

序

丸山美知代先生には、2014年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の積年の功績を称え、深い感謝の意を表するため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

丸山先生は、奈良女子大学文学部を1971年3月にご卒業後、奈良県天川村立洞川中学校に奉職されました。その後、向学の念止みがたく奈良女子大学大学院に進学され、文学研究科英語英米文学専攻修士課程を1974年に修了され、平安女学院短期大学英文科助教授を経て、1987年に本学文学部英米文学専攻の助教授として就任されました。1993年には教授に昇任され、合わせて27年という長い期間を本学の教育・研究・行政に力を尽くしてこられました。この間、数度にわたる英米文学専攻の主任をはじめ、文学部学生主事、文学部副学部長（教学担当）、大学協議委員という要職を歴任され、学部・大学・大学院の発展に寄与されてきました。とくに副学部長時代には、21世紀を見通した文学部改革をリードされ、今日の文学部の総合化・学際化・国際化への路を切り開く重要な基礎を築かれました。

一方、先生は、日本英文学会、日本アメリカ文学会、同関西支部、日本ナボコフ協会など多くの学会で、評議員・運営委員などとしてご活躍され、ご専門の現代アメリカ文学研究で数多くのめざましい成果を挙げておられます。とりわけ、ロシアからアメリカへの亡命作家として名高いウラジーミル・ナボコフのご研究や、ユダヤ系のノーベル賞作家ソール・ベローのご研究では、学界からも第一人者の一人として評価されてきました。先生のご業績については、本論集の「主要著書・論文目録」に詳しいので繰り返しません。作品を精査し現代的視角から鋭く分析される筆致も特筆すべきことだと思います。

さらに、先生は、その教育・研究を通して優秀な研究者・教育者などを沢山お育てになりました。次の時代のアメリカ文学研究を担う人材が、先生の教えを受け、広く活躍しています。

丸山先生は、普段は大変温厚な方で知られていますが、曲がったことはお嫌いで、原理原則と異なることには断固として反対の声を上げられる方でした。教授会でそうしたお姿を拝見された方も多いと思いますが、私もご一緒に仕事をさせていただいた先生の副学部長時代に、教対会議（現教学委員会）で、他学部からの煮詰まらない発言に対して、真っ正面から反対される姿勢には、まことに胸がすく思いをいたしました。また、大変ユーモラスな一面もお持ち合わせで、会議などの際に突然振り返られた先生からチョコレートなどを頂戴したことも、今では心温まる思い出となっております。

こうした意味からも、文学部の学域・専攻制への移行期の只中にあり、また大学院改革の開始という重要な節目に、先生がご定年を迎えられることは残念でありませんが、文学部教授会は、永年のご貢献に謝意を表するため、来る4月1日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう、手続きを進めています。また幸いにも、先生には、来年度以降も特別任用教授として講義を担当いただくことが決定しています。今後とも、わたくしども後進を見守り、文学部や国際文化学域へのご助言をいただければ幸いです。

2014年1月6日

立命館大学人文学会会長

文学部長 桂 島 宣 弘

